

贅沢ニートの転機

- 主人公 長井代助
  - 現代でいうニート「高等遊民」
  - 実業家の父・得が支える（政略結婚の駒として温存）



- 揺らぐ快適生活
  - 親友の平岡と妻・三千代との再会
  - ⇒ 初めて自分の感情と真摯に向き合う

学歴エリートの漂流

- 明治後期
  - 高等遊民の居場所が失われつつあった
  - 知的教養より利益を生み出す能力が重視



- 代助
  - 三千代との愛を選ぶ → 援助を失う
  - 「高等遊民」という生き方の限界を示唆

「愛」という名の覚悟

- 本作の核心 → 代助が選び取る「愛」への覚悟



代助

- 最終的に三千代との愛を選ぶ
- 家族との絶縁や社会的制裁を覚悟
- ⇒ 不安な未来へと踏み出す決意